

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第3回評議員会議事録

- 1 開催日時 平成25年6月18日(火) 午後1時30分～2時40分
- 2 開催場所 岩手県民会館 第2会議室
- 3 出席者 評議員総数 9名
出席評議員 8名
評議員 赤澤 義昭 評議員 及川 和哉
評議員 川上 隆 評議員 國香 よう子
評議員 佐々木 篁 評議員 佐々木 民夫
評議員 谷藤 和彦 評議員 古澤 眞作
出席理事 4名
理事長 池田 克典 理事 齋藤 信之
理事 菊池 和憲 理事 渡邊 和男
出席監事 2名
監事 梅木 敬時 監事 久保 隆男
- 4 議長 評議員 及川 和哉
- 5 報告事項 平成24年度事業報告及び事業報告付属明細書について
- 6 決議事項
議案第1号 平成24年度計算書類等の承認について
議案第2号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

7 議事の経過の要領及びその結果

定款第19条の定めに従い、出席した評議員の互選により選出された、及川和哉氏が議長となり、本評議員会は、定款第20条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。

なお、議事録署名人については、議長一任とする提案がなされたので、議長は佐々木民夫氏と谷藤和彦氏を指名、全員異議なく承認され、両人も承諾した。

〔報告事項〕

(1) 平成24年度事業報告及び事業報告付属明細書について

(1) について、総務部参事より別紙議案書に基づき説明がなされ、これを了承した。

〔決議事項〕

(1) 議案第1号 平成24年度計算書類等の承認について

議長は議案第1号を上程し、総務部参事より別紙議案書に基づき説明、及び梅木監事による監査報告がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

(2) 議案第2号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

議長は議案第2号を上程し、総務部参事より別紙議案書に基づき説明、その賛否をひとり一人諮ったところ、各人について全員異議なくこれを承認した。

8 その他

【評議員】

埋文センターの発掘調査が例年より規模が大きくなっている。これに係る問題もしくは悩みなどがあつたら教えていただきたい。

【埋文センター所長】

発掘調査面積に対して、現地作業員が十分に確保できていない面がある。また、マスコミ等に注目されているため、職員がナーバスになっている。職員の体調管理、計画的な進行等を含め、現地の方々に目に見える形で復興が行われるように進めていきたい。

【評議員】

施設管理について、主な課題点を教えていただきたい。

【県民会館館長】

施設の耐震化について、県に要求をしているもののまだ予算化されていない。これからも要望は重ねていくつもりである。また、その他設備等については、予算の中で優先順位を付けて整備を行っている。

【博物館副館長】

屋上部分の雨漏りが起きており、収蔵品の管理が心配である。この改修には大規模な予算が必要とみているが要求していきたい。

【美術館副館長】

空調機器等の使用が連続運転となっているため、全体的な機器の再点検を行い、優先順位をつけて改修することを検討したい。

【評議員】

各施設のバリアフリー化はどの程度進んでいるのか教えていただきたい。また、美術館で現在行われているプライスコレクション企画展は、展示解説が子供向けであることなど、美術館の新しいスタイルであることを感じている。また、県立美術館において、この企画展がこれまでの入館者記録を越えてほしいと思っている。

【県民会館館長】

中ホールまではバリアフリー化が進んでいる。大ホール方面については不完全であるため、バリアフリー化する場合には、会館の大規模改修に合わせて行うこととなる。

【博物館副館長】

施設入口までの100段階について、足腰が不自由な方には守衛に申し出ていただくことにより施設入口まで車で上がっていただけるように配慮している。また、展示室はエレベータを利用することができるが、施設が古いため、全体的なバリアフリー化はできておらず、大規模な改修として取り組むこととなる。

【美術館副館長】

バリアフリー化は対応できている。入館者の方から、オストメイト用トイレの表示が分かりにくい等の意見を頂いているので、工夫したい。

プライスコレクション展の入館者については、1日の平均入館者数が今のところ1,100人である。この計算によると約58,000人の入館者となり、最終日付近に行うイベントにおいて、多くの方に入館して頂くと、これまでの最高入館者数であったモネ展の約66,000人を越えるのではないかと期待している。

【評議員】

岩手芸術祭の参加者数が減少していることについて、自分の身近な部分からも感じているが、出品する参加者自体の高齢化、若い後継者がいないことがあげられるのではないかとと思う。若い人たちが魅力を感じて参加して頂けるような工夫も必要なのではないだろうか。

【事務局長】

参加者の減少については、おっしゃるとおり高齢化や少子化の影響があるものと思われる。全体的に減少傾向にあるが、各部門ごとにそれぞれ状況は異なっている。美術部門は、高齢化等で減少傾向にあるが、美術部門内からは、この減少についてなんとかしたいという意見もあり、短期・長期的な対策に向けて、これから検討を行うところである。また、文芸部門では、若い世代が増えている。なお、巡回小中学校美術展では、開催会場が減少しているという状況にあることから、今後努力していきたいと考えている。

【評議員】

広報活動は、できるだけ活発に行っていただきたい。若い人は、紙媒体よりもホームページを見ているようだ。また、美術館の「アートのちから、いわてのタカラ」については、興味を持って見させて頂いた。展示等については、静止画よりも搬入、展示、搬出の流れなど、作品がどのように動いているかという動画という部分に注目させることにより、若い人たちの感応がより良いと思う。良い形で情報発信をしていただきたい。

【評議員】

平成24年度の計算書については、経営が厳しい印象である。また、電車内で見かける若い人たちは携帯電話でずっと何か作業していた。このような若い人たちが博物館などに来てもらえれば、きっと携帯電話の代わりになる話題ができるのではないだろうか。岩手の文化財などについて、興味をもってもらうことにより、将来が豊かになるのではないかと感じている。

【事務局長】

計算書において、マイナスとなっている項目があることから、経営に厳しい印象をもたれたものと思われるが、当事業団は、公益財団法人であり、公益目的事業を主とした団体となっている。特に、当期正味財産額等のマイナ

ス部分については、東日本大震災の被災地支援への基金助成事業が主な要因である。今後においても、収支のバランスをみながら経営を行っていきたい。

議長は、以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了した旨を述べ、午後2時40分閉会を宣し、解散した。

議事録作成者 事務局長 齋藤 信之

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

平成25年6月21日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第3回評議員会

議長 印

評議員 印

評議員 印